

分科会名	第4分科会 研究課題「組織・運営に関する課題」
研究主題	地域連携における教頭の役割 ～家庭や地域社会との継続的な連携・協働を可能にする組織づくり～
提言者	所属：杵島郡地区教頭会 学校名：白石町立福富中学校 氏名：山口 信一郎
紙面協議のまとめ	<p>【発表内容についての所感】</p> <ul style="list-style-type: none"> 各校の取組状況を共有しながら、全会員で検討することができ有意義であった。今後、成果と課題をそれぞれの地域や学校の実態に合わせ取り組んでいこうと考える。 教頭は、企画内容検討・予算検討・申し込み・保護者地域等案内・事前打合せ・当日の日程確認・写真撮影・講師接待・事後報告などの役割を担っている。 教頭が中心となりながら、職員への意識付けや役割分担を行い、職員一人一人がコミュニティ・スクールについて理解を深めることができるようにしていきたい。 教頭として、コミュニティ・スクールを中心とした地域社会、家庭、学校の連携・協働を図るために密な情報交換、実態把握を行ってはいるものの、なかなかうまくコーディネートできていないのが実態である。 コミュニティ・スクールの組織整備により、これまで学校に関わってくださっていた外部人材や関係機関について、整理することができたと感じる。 郡内各校のアンケート調査結果から、地域連携による活動は、児童生徒の意欲を高め、教育的効果を高めるうえで効果的であるということが分かった。また、教職員にとっても意義深いものとなっている。この取り組みが教職員にとって、負担感を感じさせないような仕組みの構築、次への引継ぎを確実に進めていくことが重要であると考えます。 単なる、地域と連携した活動の紹介ではなく、「教頭として」さらには「郡の教頭会として」という切り口でレポートを書こうと試みたところは評価できると考える。 教頭がコーディネートしながら、学校がチームとして地域と深くかかわっていくことをこれからも推進していかなければならないと思った。 地域連携の実際として、各校の地域の特色を生かした様々な取組が紹介されており、非常に参考になる。人事異動で教頭がかわった場合でも機能する組織づくりとデータの整理が必要である。地域連携のキーワードは「無理なく継続的に」と考える。 アンケート質問4で地域連携は業務軽減につながっているという肯定的な意見は3分の1程度だったので、今後、地域連携と業務軽減が両立する仕組みづくりが肝要である。今後、新しい地域連携の在り方について模索し、教頭のかかわり方も考えていかなければならないと思う。
研究部長より	<p>研究主題のもと杵島郡内の小学校9校、中学校4校、義務教育学校1校の令和元年度の取組をまとめた。各学校から取組状況や課題を出してもらい、情報を共有することで、参考になる取組については取り入れ、課題については改善案を話し合うことができた。各学校の地域連携の実態の違いはあるが、コミュニティ・スクールを中心とした学校・家庭・地域の参画と協働による連携は、児童生徒に地域のよさを理解させる上で重要な役割を果たしているということを確認することができた。</p> <p>また、教頭として地域連携をコーディネートする役割を確認し、よりスムーズで負担にならない組織づくりに取り組む必要がある。（白石町立有明西小学校 中村 初男）</p>